

町小だより

令和7年
5月28日
No. 697
御免町小学校

再 確 認

校 長 土田 利康

1学期前半の大きな行事、運動会が終わりました。ここまで6年生をリーダーにして、限られた時間の中で、各学年が集中して準備を進めてきました。1年生も入学してわずか1か月のうちに立派に成長している姿がご覧いただけたと思います。ルールを守り、上級生と足並みをそろえて真剣に行動する姿には感嘆しました。また、前日の準備や当日の片付けには、多くの保護者の皆さんからお力添えをいただきました。びっくりする程の速さで作業が進む様を見て、「さすが伝統校の保護者」だと嬉しく思いました。ありがとうございました。

さて、運動会が終わり、どんな様子で子どもたちが学習しているかと思いながら校舎を回ってみました。1年生は、「まえからなんばんめ」「うしろからなんばんめ」を考えていました。「まえから」と言えばよいのか「うえから」と言えばよいのか、言葉のもつ意味の違いも挿絵を基に話し合っていました。隣の2年生教室では、たし算やひき算の筆算を学習していました。間違えないように位をそろえて、繰り上がりや繰り下がりのある計算にも取り組んでいました。計算のやり方を説明する場面では、順序立てて分かりやすく説明する姿がありました。たった1年間で、こんなにも学習内容や子どもの様子が違うのかと、改めて成長の大きさに驚きました。

別日、6年生のキャリア・パスポートを見る機会がありました。「プロ野球選手になりたい」「獣医になりたい」「習字の先生になりたい」「パティシエになりたい」など、一人一人のキャリア・パスポートに将来の夢が記されていました。最近の子どもは夢を持たないということを目にすることもありますが、町小の子どもはそうではないようです。夢は変化して当然ですが、そのとき心に抱いた思いを尊重して、学校では精一杯応援していきたいと思います。

私事です、しばらく学校現場を離れていたのも、子どもの声が広がる今の職場に、毎日心が洗われています。そして、気付いたことがあります。それは、子どもの声の合間に聞こえる教職員の称賛の声の多さです。「すごいね」「頑張ったね」「とても分かり易かったよ」などと、子どもの活動に合わせて、適宜、担任や介助員が声を掛けています。また、「ちょっと待って」「えっ、本当?」「今の意見、みんなどう思うかな」などと、子どもの集中力を高めたり、考えを共有させたりもしています。私が学校を離れていた分、これまで意識していなかった教職員のテクニックを再確認するとともに、子どもに自信を付けようとする当校の職員を誇らしく思いました。

年度当初、私は職員に生活科や総合学習などの探究活動の充実を依頼しました。当然、通常業務に新たな負荷が掛かるわけですが、早速、どうすれば探究活動が充実するのかと学年で相談したり校長室に聞きに来たりと、職員各々が子どもを思い、責任と自覚をもって実直に作業を進め始めました。本当に嬉しい限りです。

「さすが伝統校の教職員」なのです。

学校には、子どもの笑顔と成長を目に浮かべながら教育活動を考える「先生」がいます。成長を称賛する「大人」がいます。毎朝、「きっと楽しいことが待っているよ」と、家から子どもを明るく送り出していきたいと思ひます。

